

1 生涯学習 施設の役割

以前の社会環境 ・退職前の団塊世代の行動様式等	現在の社会環境 ・退職後の団塊世代の行動様式, 地域社会等	将来の社会環境 ・さらなる少子化と40%近い高齢化等
以前 ・大規模・集中型	現状 ・(相対的に) 中規模・分散型 (文化センター等との併用)	提案 ・多様機能性を備えた分散型等 【提案例】自由にレイアウトできる部屋, 施設の外に向けたデジタルサイネージ
施設と設備 ・専用設備 (プール, 陶芸室, スタジオ等)	施設と設備 ・専用設備と一部で機能変更した設備(?)	施設と設備 ・? 【施設と設備例】プール, カフェテリア, 防災備品の整備, 体験(実技)設備, ソーラー発電, 料理室

- ・施設の多言語化
- ・多様化に伴い対応できる施設
- ・外国人も利便性が高い施設
- ・バリアフリー、ジェンダーフリー
- ・自然エネルギー活用のオート化
- ・今ある自然環境をできるだけ残す
- ・震災時の避難所
- ・24時間対応 (有人でもネットでも化)
- ・雑談 みんなの居場所
- ・一般の人が参加しやすい施設 (内容を具体的に)
- ・入りやすく楽しめる施設
- ・教室型ではないフリーな場 ワークショップスペース
- ・1日過ごせる学習環境
- ・図書館の機能の再発見 (昨日と役割の両面で)
- ・市民の学習に必要な施設
- ・身近な要望に沿った施設
- ・そこへ行けばいろいろな要望にこたえてくれる施設
- ・生涯学習を地域の実業に応じた講座主催ができる施設

- ・国際化 ・国境のない社会 (国際化) ・多文化共生 (国際化)
- ・在住、訪問外国人の増加 ・外国人の増加 ・在留外国人の比率5~10%
- ・多種多様化されている (いろいろな人が増加) ・多様性と包摂
- ・AI化の浸透 (技術的イノベーション)
- ・AIによるホワイトカラー減少
- ・GDP 20位くらい (資本の流出) ・伝統文化の喪失
- ・コミュニティの役割の増大
- ・地方分権 (在宅勤務、地方移住、都市離れ)
- ・身近な学習拠点として地域住民全体の人間力を育成するための学習コーディネート機能の充実
- ・高齢化社会と少子化になっている ・空き家の増加→地域コミュニティの弱体化
- ・更なる老朽化 ・世帯ごとの人数が少なくなる、「個」が進む
- ・人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育広域的な指導者の育成の充実
- ・治安問題

2 生涯学習 機能の位置づけ

以前の学習指向 ・教養や体力維持や向上等	現在の学習 ・地域課題の解決等	将来の学習トレンド ・全世代型人材育成（労働力不足・移動促進）等
以前 ・興味に応じた技能や知識の習得	現状 ・従来事業に加え、技能や知識の相互交換	提案 ・学習情報の発信、仲立ち、リスキリング等 【提案例】 アーカイブ、資料収集（リスキリングや起業に関する資料）、AIの活用、市民把握と仲介（つながり作り）
施策 ・教養講座、文化講演会の開催、体育設備の提供	施策 ・従来施策に加え、サポーター制度	具体的な施策 ・？ 【施策例】 生涯学習に関する資料等の整備、ポイント制の導入、サポーター制度の充実、SNS・チャットボット、学習相談

- ・ロボットの動かし方
- ・非対面
- ・ネット、リモートを駆使した学習
- ・いろいろな所で機械化が進んでいる
- ・オンラインで世界とつながる
- ・双方向の学びあい
- ・学校教育と社会教育の合流
- ・市民の更なる活用（子どもから高齢者まで）
- ・高齢者の人材育成も必要なのでは？
- ・学習内容の多様性
- ・多言語、多文化の学習へ
- ・リカレント、リスキリングの柔軟な実現
- ・生涯就業可能なスキル（資格）獲得
- ・正解のない問いに皆で取り組む
- ・自然環境への関心が高まる
- ・文化の更新

- ・最新技術を体験できるツール
- ・臨場感あるデリバリー機能
- ・デジタルシチズンシップの養成と普及
- ・最先端の機能がある施設とゆったり時間が流れながらいろいろ学べる施設

- ・市民が運営や講座企画に関わる
- ・さまざまなNPOや地域団体グループが生涯学習に関わる
- ・市民にすべてをまかせる（OB含む）
- ・学びの成果を地域社会へ還元できる機能
- ・講座のフォローアップ
- ・無機質、デジタルでないもの、事への回帰、精神性
- ・課題発掘型学習
- ・若手地域リーダーの育成
- ・文化の体験の場を若い人に
- ・多文化共生や社会的危惧に関する学びあいの場

- ・市民に対する指導、教育の支援
- ・CSRとSDGsの推進
- ・情報収集と情報発信（何を求められているかを知り、それに対応した情報発信）

3 生涯学習 公共視点の実現

<u>以前の学習需要</u> ・引退後, 定年後の学習要求等	<u>現在の学習需要</u> ・地域の問題解決や個人能力育成の支援等	<u>将来の学習需要</u> ・広域での相互の支援・補助等
<u>以前</u> ・市の直轄運営	<u>現状</u> ・外部委託	<u>提案</u> ・コンパクト化（他地域との相互補完や市民運営）等 【提案例】高齢者と子供が一緒に学べる, 学習テーマ提供, 講座の取捨選択（実績重視など）, 各種自主グループ支援
<u>手段・方法</u> ・税収の再分配	<u>手段・方法</u> ・税収の再分配と委託者による事業収入	<u>具体的な手段・方法</u> ・？ 【手段・方法例】不登校児童の支援, フリースクール, テクノロジーなどの変化を伝える講座, 時代の先を読んだ技術などを伝える講座

- ・NPOや企業との連携
- ・ネットワーク型行政の実質化
- ・連携機能
- ・広域の概念の変化（縮小？拡大？）
- ・予想以上の人口減少、地方への人口分散が進む
- ・令和の大合併（行政区の見直し）市の名前が変わる
- ・災害対策
- ・スマートシティの実現
- ・情報発信
- ・人材育成
- ・ひとり親世帯への学習支援
- ・知的活動支援インフラの整備

- ・市民と協働した行政
- ・子どもから高齢者まで行きたくなる施設を作る（楽しく学んでいけるとよい）
- ・市民参加型の事業を増やす。事業に関連する機能・知識の学習機会を, 学習センターを通じて実施する
- ・学校教育、子育て、生涯学習、福祉の連携強化
- ・情報の双方向化
- ・市民のための知的インフラの整備→図書館の見直し
- ・市民の個々人の把握を進める、学習要求等の個別化に対応できるようにする
- ・継続学習可能な環境施設の提供
- ・市はきっかけづくり
- ・行政はどこまで何をやる？
- ・講座で技術を伝える
- ・生涯学習にかかわらない
- ・学び返しのサポート
- ・生涯学習センターをもっと知ってほしい